

(様式1)

自己評価票

作成日 平成26年1月4日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891900045		
法人名	有限会社バディ		
事業所名	グループホームけやき	ユニット名	B
所在地	〒300-1216 茨城県牛久市神谷1丁目14番地13		
自己評価作成日	平成26年1月4日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日	評価確定日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・家庭的な雰囲気の中で、ご利用者様、ご家族様と、スタッフとの信頼関係を築き、ご利用者様お一人お一人の思いを大切に、その人らしい「暮らし」が出来るよう支援しています。・自治会、近隣住民、ボランティアなどの方々との交流やご協力、行事へ参加することにより、地域社会の一員であることを大切にしています。・個の機能を最大限に引き出せるような、関わり、レクリエーションを目指し、日々職員同士のコミュニケーションをはかっています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を、わかりやすい言葉で、フロアの誰もが見える場所に掲示し、実践に繋がるように努めています。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア、自治会、近隣住民の方々と季節の行事のお手伝いや、避難訓練に参加して頂いたり、自治会の防災訓練に参加したりし、地域社会の一員として交流出来るよう支援しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の防災訓練では、自治会の依頼を受け、車椅子の操作、移乗、介助の指導をする等行いました。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成25年12月現在で25回を数え、様々な立場からの、助言やご意見をいただき、ユニット会議などで報告検討するよう努めています。顔見知りな自治会の役員より行事への誘いや、施設外でお会いしたときにも声をかけて頂けるようになりました。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の訪問では、積極的に、ご利用者様のお話を聴いて頂けるように支援し、介護相談員からの「苦情・要望事例等対応連絡票」を職員で回覧し、話し合うなど協力しています。行政へは、積極的に不明な点などご指導いただいています。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議で資料を配布するなどして取り組んでいますが、昼夜問わず幻覚症状が頻繁に見られ、服薬の調整などを行っている利用者様があり、離館、窓からの転落等生命に関わるとの判断から、玄関施錠、窓には身体が出ない程度の所でストッパーをつけさせていただいています。ご家族には、施錠に関する同意書をいただいています。また、これが一時的なものであることを目標とし、ています。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議で、資料を配布するなどし、再確認するように努めています。特に言葉の暴力など気を付けています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援を活用されている、ご利用者様には、ご本人様に積極的に関わって頂き、不明な点は、その都度伺うなどの支援をしています。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談の段階から、ゆっくり時間を取り、ご説明させていただいています。契約の際には、十分な納得が得られるよう、時間をかけご説明させていただき、色々なお話を伺いながら、聞きやすい環境作りに配慮しています。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中のご利用者様のお話や、家族会、運営推進会議、面会時などで得たご家族からのご要望に真摯に耳を傾け、ユニット会議や運営推進会議などで協議し、運営に反映しています。日常の世界との繋がりの要望を受け、積極的に外出の機会を儲けるように支援しています
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の会話の中から出る意見、要望を大切にし、ユニット会議などでも意見、要望の出しやすい環境作りに配慮しています。またそれらの意見、要望は会社役員に上げ、随時回答するようにしています。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績に伴う賃金アップ、スキルアップのための研修会への参加支援、希望労働時間、休暇の取得、会社役員とのコミュニケーションなど、職員がやりがいを持てる環境整備をしています。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じ研修会への参加、ユニット内での勉強会、研修報告による学習、現場でのトレーニングには経験のある職員が当たり行っています。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	運営推進会議には、同業者の参加もあり、情報交換を行っています。同業関係者の主催する勉強会に参加し研鑽、コミュニケーションをはかっています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始に当たり、ご家族から生活歴などの情報を得、なじみの場所、なじみの人になれるよう、ゆっくりご本人様の話を傾聴し、必要な時に必要な声掛けが出来るよう配慮しています。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後の様子をきめ細かく報告、疑問やご要望も都度お答え出来ないことにも必ず後日回答しています。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査の様子、ご本人との面談、ご家族のお話を合わせ、必要な支援が行えるよう見極めるようにしています。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	必要な支援をしつつ、その人らしく暮らして行けるよう、会話や仕草から読み取れるようにコミュニケーションをはかっています。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、外出、外泊を支援し必要な準備に協力しています。またできるだけご要望にはお答えできるように対応しています。生活歴やご家族との関わりを知り、日頃の会話にご家族のお名前を出すなどして、ご家族との関係を大切にしています。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に了解を得たご友人などの面会、電話の取次などを行っています。また生活歴や要望に合わせて外出先を考えるなどの支援をしています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の会話は困難な事が多い為、配席を考慮したり、職員が間に入るなどし会話がうまくゆく様支援したり、レクリエーションなどを通じ、共通の楽しみ、会話が生まれるよう支援しています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、必要に応じ相談、支援を行っています。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人本位とは何かをまず知り、介護者本位にならないよう実施しています。日々の暮らしの中の会話や行動、表情より希望、意向を把握し、ユニット会議や日々の申し送りなどで職員に周知徹底を行っています。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の調査から、ご家族への聞き取り、ご本人様のお話などを合わせ、十分に把握するようにつとめている。また必要な情報に関して、その都度ご家族様、ご本人に情報を得るようになっています。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の記録の継続や職員の気づきにより、変化を読み取り、現状の把握に努めています。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様ご家族様のご要望はもとより、職員の意見も取り入れ、介護計画の作成をし、毎月のユニット会議ごとにモニタリングを実施しています。また、ご利用者様の心身の状態の変化が生じた場合はその都度見直しを行っています。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌に対しスタッフ間の情報を共有し迅速に改善、計画見直しを行っています。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望、身体状況など踏まえながら外出の機会をつくっています。医療機関の対応なども臨機応変に対処し可能な限りニーズ沿うようになっています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア様、自治会の皆様など本人に合った事を考えて下さり、充実した時間を過ごして頂いています。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回協力医療機関の医師による訪問診療を受診できる体制になっている。利用者、家族等の希望にそうかかりつけ医への通院や往診を支援している。受診結果は家族等に電話や便りなどで報告している。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の施設に看護師がいる為、医療に関する事などタイムリーに相談が出来、利用者に対する適切な対応、支援が行えています。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要な情報はすぐさま提供できる様整えています。また入院時、受診時には普段にも増して医療機関との対応を密にし関係づくりを行っています。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議、家族会などで課題に上がるが現段階では病院やそれなりの機関、施設などでの対応となっている。運営推進委員の中に講習を出来る方がいるので今後行っていく予定。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署にて職員研修実施し内部研修。AED研修実施。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、近隣者協力のもと年2回防災訓練実施。出入口スロープ施工。自動火災報知機点検。緊急連絡網再点検。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の個性やこだわりを知り、思いを大切にして、人格、プライバシーに配慮した、声掛けに努めています。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様がご自分の要望などを話しやすいよう、声かけなどの工夫に努め働きかけています。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様お一人お一人のペースに合わせて、居心地が良いと感じて生活していただけるよう支援しています。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿った、洋服を選ぶお手伝いをするなど、こだわりを大切にし、声かけも行うようにしています。毛染めやパーマにも対応出来るようになりました。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事ごとに合わせた献立や、食卓での会話雰囲気大切にしています。メニューの相談やご希望を伺うなどし楽しみにして下さっています。ご利用者様、自ら後片付けをして頂くことが日常になっています。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量記録、声掛けを実践しています。定期的な血液検査、体重の増減の把握に努めています。水分摂取には特に、脱水にならないように注意しています。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の受診を行って頂くと共に、毎食後必要に応じ、声掛け、見守りを行っています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを記録し、適切な時間に誘導出来るように努めています。夜間オムツの方も日中には、リハビリパンツを使用し、トイレで排泄が出来るよう支援しています。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を取り、歩行などの運動をし、野菜を多く取り入れる食事の工夫をしています。主治医に適切に指示を仰いでいます。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回は最低でも入浴していただけるよう心がけています。肌の弱方などに応じ石鹸などの工夫もしています。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくり共有スペースで過ごされている方もありますが、ほとんどの方が夕飯を終えると、お休みの準備に居室へ戻られます。居室でゆっくり過ごされたり、早めにお休みななったり、個人のペースで支援しています。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の変更に関しては、申し送りなどで職員に周知、経過観察を行っています。服薬の際にはトリプルチェックと確認表への押印により誤薬の防止につとめています。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味にされていたことを、施設でも引き続き行って頂けるよう工夫をしています。廊下に古い写真を掲示したりしお話が弾むこともあります。個々に出来ることや、やりたいことが異なる為、日々試行錯誤しています
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩ではその日のご希望に沿って戸外へ出かけています。デッキに出て、体操をしたりお茶を飲んだりすることもあります。ユニットの皆さんでドライブに出かけることもあります、外出時には、ご家族にも支援していただいています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的にはお預かり金として、ご家族よりお金を、施設でお預かりしています。その中から、買い物をしたり、外出時に使用させていただいています。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>携帯を所持している方もあり、不安なときご家族の声を聞くなどされています。外部からの電話の取次、掛けたいとご希望があるときは掛けられるように支援しています。手紙のやり取りもご自由に行って頂いていますが、ご本人が難しくなっている所の支援を行ったりご家族へ報告したりしています。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアに季節ごとの飾りをしたりし楽しみのある空間となるよう工夫をしています。開放的な吹き抜けの天井からは明るい日差しが差し込んできています。デッキとの行き来をし、肌で季節を感じることが出来ます。ご自分の居室前に、似顔絵があり、認識しやすい工夫をしています。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>要望に応じスペース作りをしています。ご自分では出来ないとき必要な支援が出来るように、心がけています。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所時に、ご本人やご家族と相談しながら、馴染みの物の持ち込みをしていただいています。また身体状況に応じ、掴まって移動しやすい工夫をされていたり、家具の色を揃え落ち着いた空間作りがなされています。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>お一人お一人に応じた支援を心がけ、必要な支援をしています。居室前には似顔絵や、目印を付けたり、職員の顔と名前がわかるよう掲示することで、ご自分で名前を確認、記録されたりしています。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない